

クリの樹体拡大や収量確保のための

樹齢別の適樹勢を簡単に診断できる基準を策定

岐阜県におけるクリ栽培は東美濃産地を中心に、低樹高・超低樹高仕立て法の普及とクリの需要拡大を背景に産地拡大が進んでおり、新規栽培者も増えています。そこで、岐阜県中山間農業研究所では新規栽培者でも樹の観察や簡易測定で樹齢別の適樹勢を簡単に診断できる基準を策定したので紹介します。

☆技術の概要

1. クリ「丹沢」及び「筑波」において、樹齢別の適樹勢を簡単に診断できる基準は以下の通りです（表1）。

1) 幼木期は、開花期前（6月上旬：6月追肥施用前）に主枝先端新梢の葉色（SPAD値）及び長さを、落葉期（11月下旬：基肥施用前）に主枝先端新梢の長さ、葉の黄化程度及び落葉程度（測定）を測定し判定します。

2) 若木期は、開花期前に主枝先端新梢の葉色及び長さ、落葉期に結果母枝候補枝の基部径、葉の黄化程度及び落葉程度（観察）を測定し判定します。

3) 成木前期は、開花期前に結果枝の葉色及び長さ、落葉期に結果母枝候補枝の長さ、基部径を測定し判定します。

4) 成木後期は、開花期前に結果枝の葉色、長さ及び発育枝の長さ、収穫期前（8月下旬：9月礼肥施用前）に発育枝の長さ、落葉期に結果母枝候補枝の長さ、基部径を測定し判定します。

表1 <樹齢別・基幹品種別の樹相診断基準>

樹齢・品種	調査時期		11/下旬 (落葉期)
	6/上旬 (開花期前)	8/下旬 (収穫期前)	
幼木期 (1~3年生)	丹沢	主枝先端新梢の葉色 y 45~50 " 長さ 30~40cm	主枝先端新梢の長さ 60cm前後 葉色 黄 落葉程度 10%以下
	筑波	主枝先端新梢の葉色 45~50 " 長さ 30~50cm	主枝先端新梢の長さ 60~80cm 葉色 ヤヤ緑~黄 落葉程度 5%以下
若木期 (4~6年生)	丹沢	主枝先端新梢の葉色 45~50 " 長さ 30~35cm	結果母枝候補枝の基部径 8~10mm 葉色 黄 落葉程度 10%以下
	筑波	主枝先端新梢の葉色 45~50 " 長さ 25~30cm	結果母枝候補枝の基部径 8~10mm 葉色 ヤヤ緑~黄 落葉程度 5%以下
成木前期 (7~14年生)	丹沢	結果枝の葉色 40~48 " 長さ 30cm前後	結果母枝候補枝の長さ 40~45cm " 基部径 8mm前後
	筑波	結果枝の葉色 35~48 " 長さ 25~30cm前後	結果母枝候補枝の長さ 40~50cm " 基部径 8~10mm
成木後期 (15年生~)	丹沢	結果枝の葉色 40~45 " 長さ 30cm前後 発育枝の長さ 55~65cm前後	発育枝の長さ 150~190cm 結果母枝候補枝の長さ 150~200cm " 基部径 12~14mm
	筑波	結果枝の葉色 45~55 " 長さ 35~40cm 発育枝の長さ 60~70cm	発育枝の長さ 140~180cm 結果母枝候補枝の長さ 150~180cm " 基部径 14~16mm

注) y: SPAD葉緑素計による(葉緑素含量を示す値)。2: 若木及び成木前期は新梢、成木後期は発育枝を指す。

☆活用面での留意点

1. 本基準に基づく診断対象は、岐阜県方式の低樹高・超低樹高仕立ての「丹沢」及び「筑波」とします。
2. 診断結果は、開花期前の診断では初夏の追肥（6月中旬）、収穫期前の診断では礼肥（9月下旬～10月上旬）、落葉期の診断では基肥（2～3月）の量及び剪定量の判断に活用できます。
3. 診断に基づく施肥量、剪定量の調整は土壌条件によって異なるため、1～2割程度を加減しながら数年かけて行うとよいでしょう。
4. 診断を行う前には、樹の生育を妨げる凍害や病虫害（カミキリムシ類、カイガラムシ類など）の被害の有無を確認し、被害を受けている場合は先ずその対応を行ってください。
5. 詳細については、岐阜県中山間農業研究所中津川支所（0573-72-2711）にお問い合わせください。